低炭素ワーキンググループの進捗と 持続可能性計画に関する私見

藤野純一

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 低炭素ワーキンググループ 座長 (地球環境戦略研究機関/国立環境研究所)

公開ブリーフィング

2020 SDGs 東京五輪「持続可能性運営計画第2版」に向けて、 企業との情報共有、2017年9月14日、東京

持続可能性計画第2版と低炭素WG

- 2018年3月末までに策定予定。
- そのためには秋にドラフトを作成しパブコメする必要がある。
- ・低炭素WGは CO_2 排出量の算定(カーボンフットプリント)、ISO20121等の国際水準を見据えた CO_2 削減体制・システム(カーボンマネージメント)、排出ゼロを目指した削減策(カーボンオフセットを含む)の検討を進めている。

<u>カーボン的・サステナビリティ的</u> 東京大会の立ち位置

- 2012年ロンドン大会:大会のサステナビリティシステムISO20121確立、大会排出CO,約350万トン。
- 2016年リオ大会:サステナビリティの意識徹底。 計画段階約360万トン、観客増えて約450万トン。
- 2020年東京大会:パリ協定発効年の大会。脱炭素に向けてカーボン(・サステナビリティ)マネージメントシステムの提案・実施、算定中。
- 2024年パリ大会:パリ協定採択の場。すでに ISO20121に準拠した大会準備の開始。
- 2028年カリフォルニア大会:2018年9月に気候変動 に関するnon-state actorsの世界大会開催予定。

<u>CO2削減の5段階ステップ</u>

- 1. 大会の運営自体の工夫:効率化できると**CO**₂ も減る
- 2. 設計の工夫・施設運用の工夫:光や風など自然のエネルギーを上手に取り込むデザイン
- 3. 機器の高効率化:必要なエネルギーサービス 量を少ないエネルギー投入で対応
- 4. 低・脱炭素エネルギーの利用:再エネなど CO₂原単位の小さいエネルギーで
- 5. 出てしまう CO_2 のオフセット(相殺): その際検証可能で、目的に適ったものを選択





脱炭素をSDGsの視点から見ると

「持続可能な開発目標」です

SUSTAINABLE GEALS DEVELOPMENT GEALS

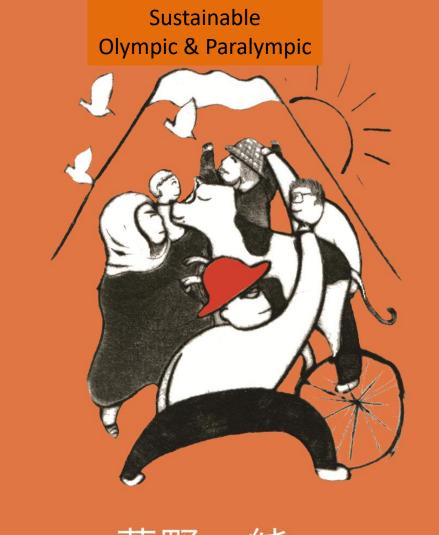
世界を変えるための17の目標



みんなで大会のCO2排出をゼロに、サステナブルにするには、 みんなの得意なところを伸ばしながら参加する仕組みが必要!

「東京大会は、競技も おもてなしもよかったけど、 『サステナビリティって こういうことなんだ!』 っていろんな場面で 触れて、実感できて、 ほんと来てよかった!」 って言われる大会に なったらいいな。

みんなでそうしましょう!



藤野 純一 Junichi FUJINO

jfuji55@gmail.com